



一般社団法人うつほの杜学園設立準備会

学校設置予定地
和歌山県田辺市中辺路町川合1451

info@utsuho-academy.com
<https://utsuho-academy.com/>

うつほの杜学園
学校案内 2025

UTSUHO ACADEMY SCHOOL GUIDE

より良い未来のための教育と社会を

Education and Communities for a Better Future

教育は何のためにあるのでしょうか？

世界が混沌と変化し続ける社会において、これからの中学校のあり方はどんなものなのでしょう？

私たちは、教育とは人が学び続けることを勇気づけ、生きる喜びを与え、そしてより良い未来を起こすための技術や思考を身に付けるためにあると考えます。また同時に、今人類が抱える国境を超えた様々な難題を解決することも、教育の大きな役割だと考えています。

今、世界遺産・熊野古道のほとりに、50社と650人を上回る企業や個人からの寄付、そして地元住民や行政からの支援により、「うつほの杜学園」という名の新しい学校が生まれようとしています。この学園は沢山の大人から子どもたちへ向けた、希望と愛情に溢れる贈り物です。この学び舎で仲間を見つけ、生活や体験を通じて相互に影響し合い、励まし合い、成長し合う子どもたち。彼らを中心に学校コミュニティを形成し、そこから多様な化学反応が起き、社会を変える原動力となると同時に、まちの人々の拠り所となりたいと考えます。

この学校の誕生を待ち望む多くの人々の希望と応援に溢れた学びの場で、子どもたちのより良い未来づくりを目指します。それと同時に、我々もまた、日々学び続け探究し、創造し続ける共同体であり続けます。そして私たちが創る学校と教育の先には、私たちが望むより良い社会づくりがあると考えています。





仙石 恭子

理事長&学園長予定

IB国際バカロレア教員資格



市川 顕

校長予定

東洋大学国際学部
グローバル・イノベーション学科教授

小佐田 裕美

事務局長予定&
ウェルビーイングディレクター
選択理論心理士

相馬 健太郎

経営管理ディレクター

いよいよ、ゼロからみんなで創る学校の幕開けです。

2020年夏に決心し、学校構想を最初に描いた時、浮かんできたのは昔から縁のあるイタリアの小さな村々で、地元の風土価値を理解し、村の歴史や文化を紡ぎ、その延長に時に仕事を生み出しながらも豊かに生きる人々の姿でした。日本にも地域ごとに美しい風土や文化があり、世界にだけ目が向くのでは無く、豊かな自然と、地域にも根付くことが子どもたちの幸せに必ずつながると確信する中で、私はそれをグローバルな感性と地域のローカルなアイデンティティ両方を持つ「グローカル人」という言葉に込めました。江戸時代には村中に寺子屋があり、子どもたちの未来を想う大人たちが各々に教科書にしたため、地域ごとに好きな教科書を使って学んでいた、日本人の学びの原点とも結びつきました。予測不可能な世界情勢が続き、これからのお子さまが開拓する中、いよいよ私たちの学校が完成し、学びの航海に出る瞬間がやってきます。今から始まる冒険は、時に険しく、私たち自身も航路に迷うこともあるかもしれません。しかし、多くの方々の応援と共に立ち上がる学校の幕開けを共に楽しみ冒険したい！そう思ってくださる皆さまと出逢い、一緒できることを、楽しみにしています。

小学校から大学院までシームレスで能動的な探究を。

お子さまは何をしているときが楽しそうでしょうか？楽しいという感情は、もっと知りたい、という動機づけになります。そして、何かを知ると、お子さまはそれをもとに作りたい、表現したい、という本来人間に兼ね備えられた能動的欲求を持つようになります。このような学習のあり方は、とても素敵なものですね。

私たちはこのようにしてお子さまの才能を最大限伸ばしていきたいと思っています。本学園が立地する田辺市中辺路町は、とても自然が豊かなところです。お子さまはここで、自然の大切さを十分に学ぶことができるでしょう。また近くにある世界遺産・熊野古道には多くの外国人観光客が訪れます。お子さまがこのような人々と交流することで、グローバルな視野をもち、グローバルとローカルを架橋する、現在の日本で最も必要とされている人財に育っていくことでしょう。

本学園の理念に共感いただける保護者の皆様と共に、一緒に学校を作り上げ、お子さまの学習環境を日々改良していきます。

保護者の皆様およびお子さまとお会いできることを待ちにしております。



石川 一郎

スクールディレクター
21世紀型教育機構理事

子どもも大人もみんなが
心身共に満たされた学校に。

乳幼児や小中高生の育成と、子どもと関わる大人向けの研修講師の仕事をする中で、良質な教育と人間関係が、人の価値観や指針に大きな影響を与えることを実感してきました。そして私自身も、探究的な学びや、選択理論との出会いにより、人生が変わりました。本学園で、子どもや先生、親、学校に関わる大人みんなが、心身共に満たされたウェルビーイングな学校を実現していきます。

**熊野古道の自然や歴史に集う
人と交流する子たちが楽しみ。**

首都圏では中学受験が過熱しています。一方、富裕層は日本の教育に背を向けてインターナショナルスクールを選びます。どちらも、一定の教育効果はあると思いますが、未来の社会を生きる子どもたちにとって他の選択肢はないかとずっと考えてきました。

田辺の豊かな自然、熊野古道の歴史、この地に集う多種多様な人たち。そんな背景で育つ子どもたちと関わっていくことを楽しみにしています。

**自分の軸を持ち、様々な人と
ふれ合うことで人生は豊かに。**

「道」の世界遺産が2つだけあります。1つは主にスペインを歩くサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路。そこを歩き、多くの国の人と出会ったとき「自分の根っこを持ち、様々な人とふれ合うことで人生は豊かになる」「そういう人を増やしたい」と考えるようになりました。もう1つの「道」は熊野古道。その道中にできるうつほの杜学園は「そういう人」を増やしていく場所になるはずです。

学びの舞台は世界遺産・熊野古道

世界でここだけの学びを。

うつほの杜学園(仮称)が学校設立を目指す場所は、1000年以上の歴史を持つ日本の聖地、熊野古道がある和歌山県田辺市中辺路町。この道はスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指す巡礼の道と同様に世界遺産に登録されており、海外から多くの参拝者が訪れます。海までは約35分、関西の温泉地として知られる白浜温泉や白良浜ビーチ、アドベンチャーワールドもあり、温暖な気候で食材も豊富な環境です。この地が世界の子どもたちと日本の子どもたちが学び合う国際的な学びのフィールドとなります。



子どもたちが過ごす学校環境 Campus and Surroundings

和歌山県田辺市中辺路町川合にある、住民に愛され続ける旧二川小学校を改修します。味わい深いレトロな雰囲気を残した空間となります。開校後は学びと生活の場である学校環境を子どもたちと共に創り続けます。

施設

体育館・美術室・音楽室・理科室・家庭科室・
ラーニングセンター・図書室・運動場・うつほの田んぼ



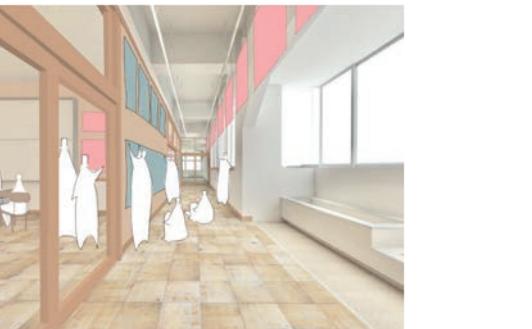
設計: ツバメアーキテクツ / ランドスケープデザイン: FOLK



校庭へと続く玄関はより開放的に



保護者の方や外部の方も利用できるラウンジ



風と光が心地よい教室は廊下との壁が可動式に



共に未来を拓く グローカルリーダーを 育てます

予測不可能なVUCA時代。うつほの杜学園では、地球人の視座や国際感覚を持ちながらも、住んでいる地域とつながり、地域アイデンティティと自分軸をしっかりと持った人をグローカルリーダーと定義しています。

人のコミュニケーションのみならず、社会や自然など外部環境と深くつながっていく関係力、そこから見つけた自分の問いを追求する探究力、そして0から1を生み出す創造力を3つの力に加え、失敗を恐れず挑戦する冒險マインドを、学びや共同生活を通じて身に付けていきます。



What's グローカル?

「グローバル = 地球規模の視座」と
「ローカル = 地域のアイデンティティと視座」
両方を持つことを表した言葉です。



探究力

好きや遊び、もやもやから問い合わせ、
見つけ、自分ごと化し、
深く思考しながら学び続ける力



関係力

世の中の多様性と複雑性を理解し、
地球や自然、そして社会と繋がり
関わり助け合っていく力



自分軸と冒険マインド

自分軸とは自分の好きなことや得意なことを知りながら自己承認し、高い自己肯定感を持つこと。
更に失敗を恐れず挑戦する心が冒険マインド。



創造力

志と問い合わせをもって、
世の中に働きかけ、
形にしていく力



うつほの杜学園のカリキュラム

Curriculum Overview

百聞は一見に如かず。うつほの杜学園の探究型グローバル教育は、教室や教科書を超え、世界、地域、自然と子どもたちが実際につながり、体験をしながら学ぶことに重きを置きます。脳だけでなく、多感な時期の子どもたちの身体や心づくり、そして五感を養うことも大事にし、バランスの取れた教育を行います。

全ての教科は子どもたちの「なぜ？」や「もやもや」そして「好き！」を大切に子どもたちが主体となり、探究的に授業を行います。学校でなければできない共同生活や討論、協働的な学びから、お互いを尊重し未来を共創する力を身に付けていきます。

ウェルビーイング

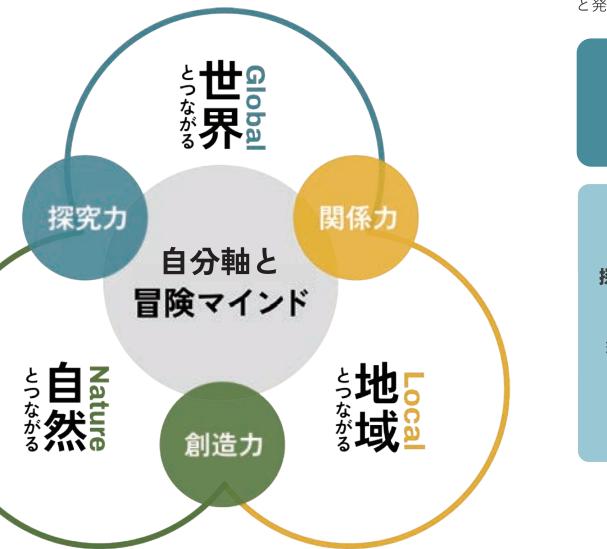
学校コミュニティのウェルビーイングを高めることが良い学習と学校づくりの礎であると考えます。学校に関わる子どものみならず、先生や家族など全ての人の心と身体が良い状態で居られるウェルビーイングな授業づくりや学校のルールづくりを行います。

学校コミュニティ

子どもたちは授業のみならず、日々の生活からも沢山のことを学び、成長します。子どもたちを中心に、教職員、保護者、地域の住民、共創パートナーが共同体となり、安心安全の学校コミュニティを築いていきます。

サステナブル

国際社会は地球市民として取り組むべき課題で溢れています。私たちはサステナブルを学びの中で考えることからはじめり、学校コミュニティで持続可能な学校づくり、地域づくりに取り組みます。小さなまちのあり方を子どもたちと共に探究し、課題解決に取り組みます。



うつほの小中9年間

Students' Nine Years at Utsuho

うつほの杜学園の9年間の教育は、初等部プライマリー5年と中等部ジュニア4年に分かれます。教科横断で学ぶ初等部から中等部になると教科に分かれ、よりアカデミックな学びへと発展します。



1

探究プロジェクト

理科と社会を中心に、様々な教科を横断したプロジェクト授業。1年間に6つ、約6週間に渡るプロジェクトに取り組みます。大きなテーマに対する答えが一つではない探究的な問いかけから始まり、グループワークを中心とした最終課題に向けて世界、地域、自然ともつながったインプットやアウトプットを繰り返しながらの授業を行っていきます。



3

食学

「食」はグローバル社会で持続可能な未来とウェルビーイングに関わる大切なテーマ。そして自分で食べるものを作ることができる農業や調理の力は幸せに生きる上で欠かせません。食学では学校の目の前で行う米作りから始まる農業実習から始まり、日本の多くの食材発祥の地でもある和歌山の立地を生かした調理実習などを中心とする授業を行います。



2

バイリンガル教育

多言語での学びは多様な世界と価値観への理解の第一歩です。多言語での学びを構成することで、様々な視点から物事を捉え、学びの可能性を大きく広げます。授業は日本語を学びのベースにし、多言語化への架け橋となるよう英語で科目を行うイメージの授業も取り入れます。

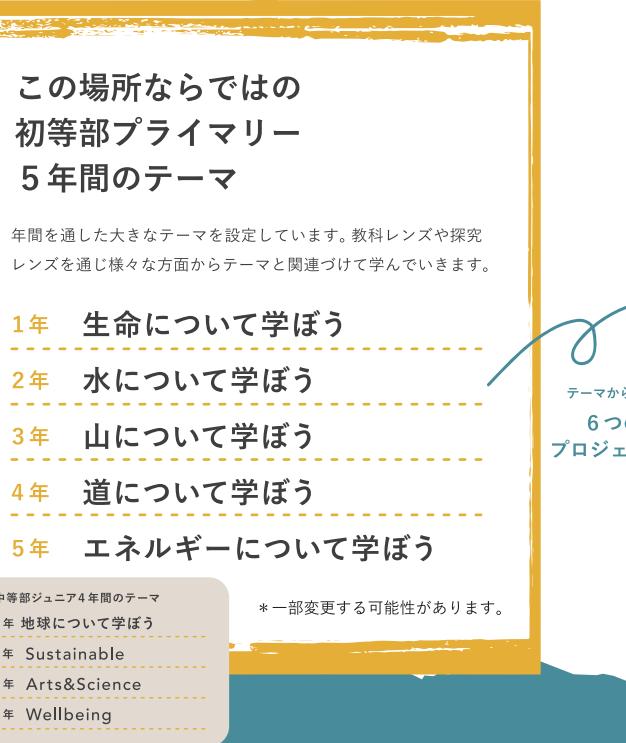


4

きのくに体験学習

世界遺産・熊野古道をウォーキングしたり、高野山での体験学習をするなど、アウトドア活動や歴史・文化的体験豊富な課外活動を日常的に行っています。子どもの時間ならではのワクワクいっぱいの学校の立地を生かした体験学習を通じ、身体と心を始めとする五感を育む学びを行います。学年を超えたホームクラスで異年齢が交わる機会ともなります。





探究的な学びは、正解が一つでない「探究的な問い」からはじまる！

学習のゴールは何か？それはテストではありません。今まで知らなかったことを知る、のが学習の始まり。そして、「なぜ？」、「どうやって？」、「ほんとうに？」、「もし～だったら」と考え続ける、これがいわゆる「探究的な学び」。人は、変わりゆく社会の中で、多くの人と出会いながら「正解のない問い」と常に直面していきます。社会に一歩出れば自分ならではの軸を持った最適な答えを出すことが求められます。そんな時にも役に立つのが「探究的な学び」です。

教員は探究を深めるための問い合わせや、ファシリテーションを行います。意見をし合うことで、人には様々な考え方があることに気付きます。お互いの得意・不得意を知り、協働で課題解決をする術を知り、お互いを評価し振り返り、アクションを起こし、また探究を行う、このスパイラルを通じ、様々なスキルを身に付けていきます。

探究プロジェクト授業は例えばこんな6週間！

探究の問い合わせ「山は変化している」

1

「山」ってなんだろう？

そもそも「山」ってなんだろう？先生の問い合わせから、子どもたちは「山」の定義についてディスカッション。探究がはじまります。

テーマから年間
6つの
プロジェクトに！



授業の最後は
必ず振り返り！

2

山の過去

山にも始まりがあるはずです。山の成り立ちについて、本や資料等から学びます。国語の授業でもインタビューの方法を勉強したり、山の物語を読みだします。



授業の最後は
必ず振り返り！

3

山の現在

実際に山に探検にいきます。山を管理する人がいることや、植樹の活動のことを知ったり、山の生物や動物の存在にも気づき観察したりします。



昔の山を知る地域の方にも
インタビューを通して
情報を集めます。
教科書や本だけ
ではなく、現場で
体感する

4

山の未来

ここまで山のことを学んできた子どもたちは、最初に問われた「山は変化している」ことに気が付きました。自分が気になった変化のポイントと関連づながら、山と共に「生きていく」ために自分たちがしたいこと、できることを考えます。



北欧など海外の
林業についても
学習

プレゼンテーション

自分たちが描いた絵と計画書を作成し、発表します。様々な考え方を知り、感想を述べています。振り返りも行います。

5



5年間で行う
探究プロジェクト授業の数は
約30！

30プロジェクトを通じ、自分が特に気になった「もやもや」や「好き！」を授業後も探究し続ける子どもも出てきます。

こうして「関係力」「探究力」「創造力」を身に付け、5年生の最後には、自分で見つけた「探究の問い合わせ」を立て、マイプロジェクトに取り組みます。



イタリアの子どもたちと交流や探究



アドベンチャーワールドの動物と探究

探究的な学びでは、子どもが学習評価の主体です。

学期終わりの成績を含んだ学習評価は子どもにとって学ぶ力やスキルを更に上げるために存在します。日々の授業は、「振り返り」の機会にあります。

探究的な学びでは、教員が一方的に成績を付けたり評価を行うのではなく、自分自身で自己評価をするセルフアセスメント、クラスメイト同士で評価するピアアセスメントを行いますが、その中心にいるのは一人ひとりの子ども=学習者です。



①自己評価

②クラスメイトとの相互評価

③先生からの評価

探究的な学びでは、世界や地域の共創パートナーとのプロジェクトも。

世界や地域の共創パートナーと、連携協定を結んでいます。世界の共創パートナーは、イタリアの食とサステナブルをコンセプトに教育活動などを実施する非政府組織Future Food Institute。地域の共創パートナーは、アドベンチャーワールドを運営する(株)アワーズと、ガーデニングや野外照明を手がける(株)タカショーグループ。開校後も連携校や企業を増やし、外部アクターと共に進行するプロジェクトも行っています。

子どもたちの1日

A Day in the Life of Our Students



時間割りのイメージ

	月	火	水	木	金
1時間目	生活	うつほ会議	食	算数	体育×英語
2時間目	体育×英語	国語	音楽×英語	国語	図工×英語
3時間目	算数	図工×英語	体育×英語	英語	国語
4時間目	音楽×英語	英語	国語	道徳	英語
5時間目	探究	算数	探究	探究	探究
6時間目	探究	探究	探究	探究	探究

ICT環境

日常的にICTを活用していきます。授業内ではリサーチ時や、写真や動画を撮って記録するほか、発表用のスライド等も子どもたち自身が作成します。また、ICTを使い提携校との連携など世界とつながります。情報リテラシーやメディアリテラシーの育成と共に、ICTを使い学びの可能性を広げます。

子どもたちの1年間

A Year at Utsuho



学年縦割り ホームクラス

縦割りホームクラスでは、学年の垣根なく全学年が混ざり、朝の会や給食、掃除を協働して行います。異学年が同じ教室で生活し、学びを構成することで、安全でインクルーシブな学習環境をつくりあげる視点を養うと共に、さまざまな視点から物事を捉えられる機会を生み出します。

ウェルビーイングを 取り入れた道徳と自己管理

平和な世界をつくるためには、一人ひとりがウェルビーイングを意識することが大切です。道徳の授業を中心に、自己理解と他者理解に重点をおき、子どもたち一人ひとりが幸せで満たされたための素地を、選択理論心理学のメソッドを用いながら育みます。

うつほ会議

シティズンシップ教育の一貫として、週に1度子どもたちも教員も一緒にになり、みんなで話し合う時間を設けます。「いっしょに学ぼう、創ろう、冒險しよう」をモットーのもと、より良い学校を創るために問題を協議し、学校のルールを問い合わせたり、プロジェクトのアイディア出しなど、全校生徒の話し合いの時間です。

卒業後の進路について

Beyond Utsuho - After Graduation



中学校　…　高校　…　その後の大学など

うつほの杜学園では
中学校の設立を予定しています。

- 中等部ジュニア4年間のテーマ
- 6年 地球について学ぼう
 - 7年 Sustainable
 - 8年 Arts&Science
 - 9年 Wellbeing

9年間で自分の
土台をつくる



県内・国内の高校への進学

高等専門学校・農業高校・工芸
高校など専門的な学校へ進学

海外の高校への進学

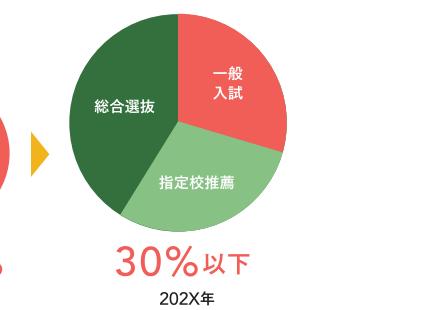
小学校6年生から一足先にジュニア
カリキュラムへ。教科に分かれ、
よりアカデミックな探究にチャレンジします。

身の回りのことから学び、心身共に成長した子どもたちはい
よいよ6年生から更に世界を広げ、学習対象も広がりより複
雑で抽象的な概念や仕組みについて学んでいきます。
最終学年は、ウェルビーイングという概念を通じ、自分のウェ
ルビーイングに向き合いながら次の進路につなげます。

高等教育もまた多様化しています。
子どもたち一人ひとりに寄り添い、次の
進路先を共に見つけ、進路をサポートします。

大学入試の変容は早くも高校入試へも波及してきています。
知識よりも知識を「運用する能力」や経験・体験から教訓を「引
き出す能力」、そして自分を「表現する能力」が重要視されます。
当学園での学習や自己評価の手法はこれから時代が求め
る能力に直結します。

自分軸を持ち、関係力、探究力、創造力を身に付けた子
どもたちは、大学進学を望んだ場合、自己推薦型の総合
型選抜で、大学入試に挑む力の種を十分に育んでいます。
理想の進路を自分で見つけ、挑んでいくでしょう。



その後の大学など

よくある質問 Question & Answer

Q1.うつほの杜学園の名前の由来について教えてください。

「うつほ」とは、岩や木の中にできる「空洞」や全てが始まる最初の空間という意味があります。学校名にはこの学
園が、子どもたちが生涯学習者として育つ基礎を築く、最初の学びのプラットホームになってほしいという願い
を込めています。

Q2.1学年何名ですか？

小学校は1学年25名定員です。

Q3.学年を超えて子どもたちが交流する機会はありますか？

学年ごとの学習クラスの他に、ホームという縦割りのクラスに所属します。朝の会や給食、掃除などはホームクラ
ス単位で異学年で生活をします。また、行事やうつほ子ども会議など学年を超えて協働する機会が多くあります。

Q4.英語を学習しておくべきですか？

必要ありません。就学前はお子さまが好きなこと、興味があることを応援してあげてください。

Q5.英語教育について教えてください。

うつほの杜学園では、バイリンガル教育を取り入れています。1年生から英語の授業を実施するだけでなく、他教
科や児童たちの学校生活の中に多言語を活用した活動を行なっていく予定です。またオンラインを使い、他の国
の子どもたちとの交流の機会もあります。

Q6.学習面の質問がある場合、授業の時間外に児童は質問できますか？

もちろんです。校長はじめ担任や教科担当以外の教員への質問も大歓迎です。

Q7.学童保育はありますか？

はい、ございます。詳細は追ってお知らせさせていただきます。

Q8.保護者はどのように学校に関わることができますか？

保護者の皆様は、一番身近な学校コミュニティの一員だと考えております。行事をはじめ、子どもたちの授業の発
表など、多くのご参加の機会があります。

Q9.給食はありますか？

うつほの杜学園オリジナルの献立での給食を地元の給食センターと協働でお出しします。和食がメインで地元の
食材も沢山使った給食です。

Q10.登下校はどのような方法がありますか？

スクールバス、送迎、徒歩での登下校が可能です。

Q11.寮はありますか？

ございません。本学園は、学校と家庭が連携し合って、子どもを育てていくことを大切にしたいためです。

Q12.入学するにあたり決められた校区や通学時間に制限はありますか？

学校からの制限はございません。

Q13.どのような家庭を求めていますか？

うつほの杜学園の教育をご理解ください、学校コミュニティの一員として共にお子さまの可能性を育てていくこ
とに賛同いただけるご家庭です。

Q14.小学校入試に関して、子どもの何を重視しますか？

お子さまの問題発見・問題解決能力の萌芽です。

Q15.幼稚園からのコメント(内申書・推薦状)が必要ですか？

必要ございません。

Q16.応募時の居住地は和歌山でなくても大丈夫ですか？

問題ございません。

Q17.説明会や体験会はありますか？

年に数回実施予定です。また移住相談も行います。詳細は学校Webサイト等でお知らせさせていただきます。

うつほの杜学園のスタッフ Faculty and Staff



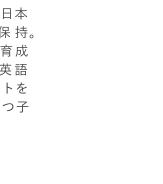
デンマーク留学にて「子ども主体の教育」を肌で感じ、国際バカロレア(IB)教員資格を取得。IB校での勤務実績あり。バイリンガルの英語力。日本の教育を学校コミュニティのみなで変えたい。



教員歴10年以上。米作り、対話、小中連携を柱として、地域の資源を活かした体験的で教科横断的な授業を実践。韓国留学経験あり。ありのままの自分や他者を受け入れる力を育てたい。



アドベンチャーワールド所属(連携協定により参画)。アドベンチャーワールドをはじめとする地域企業と連携した探究プロジェクト作成を担当。動物との関わりを通じ「いのち」について考える学校にしたい。



和歌山移住歴約20年。日本語能力検定試験1級保持。親子向けバイリンガル育成の実績あり。効果的な英語教育と成長マインドセットを広め、自信と好奇心を持つ子どもを育てたい。

大森 美衣南
カリキュラムコーディネーター&教員(英語、探究)

中山 Polina
英語常勤講師

中山 Polina
英語常勤講師



2020年より日本在住。英会話教室にて赤ちゃんからご高齢の方まで幅広い年代に英語を教える。日本の将来のために自己認識・クリティカルシンキングが出来るグローバルな人を育てたい。



田辺帰郷14年。画家。多地域にてアートプロジェクトを主宰。美術情操教育を研究し、自らの絵画教室や幼稚園、企業コラボなど実践。自ら考え、発想し創作することを大切にしたい。



合唱国際コンテストで多数受賞。音楽を通して欧米の教育や文化を知る。50カ国以上を旅した経験あり。英会話教室経営。活気に満ち溢れた社会や教育現場、人生を創っていくたい。

うつほの杜学園のコミュニティ Our Community



移住メディア『複住スタイル』の創刊、運営実績から保護者の移住相談役を担当。田辺と全国の多拠点ライフ、野性古道のロングトレイル化や外国人受け環境整備にも携わる。

池田 大志
共創コーディネーター



紀州備長炭職人。旧二川小学校の元保護者。学校や地域に精通。米作りや自然環境での遊びを通しての野外活動、動植物との共生、DIYでのものづくりを中心とした授業を支援予定。

土山 徹
授業運営支援員



紀南地域の小中学校の元校長。探究、グローバルがライフワーク。地元とのつながりを生かした授業づくりや、学校勤務の経験から学校危機管理の面でボランティアとして支援予定。

前山 賢一
授業運営支援員



学校の近くにある中辺路行政局にて、まちを支える田辺市役所の職員の皆さん。学校周辺に詳しく、移住サポートを始め、学校と田辺市の連携を支援いただく予定。

中辺路行政局の皆さま
田辺市役所側のサポート員



2019年メガバンク入行。大阪・東京で5年間勤務。実家は田辺市のみかん農家。災害復興支援や国際ボランティア受け経験あり。地元と和歌山の関係人口を創出するべく、移住支援を担当。

中山 耕太郎
田辺市役所側のサポート員

子どもたちと学び、冒険する教員とスタッフです。

他、副校長・常勤教員3名・養護教諭・用務員が2025年4月から勤務予定

学校設立に向けたストーリー Fundation Story

うつほの杜学園設立準備会は、発起人仙石恭子が2021年2月に声をあげたところから始まり、多くの共感者、応援者と共に学校設立を目指し、活動してきました。

- 2021年2月 発起人仙石恭子が学校構想第1回プレゼンテーションを行う。多くの共感と指示を得てプロジェクトの始動を決意。
- 2021年7月 一般社団法人うつほの杜学園設立準備会の前身ワカヤマスコラボを小佐田裕美含む3人で立ち上げ、活動を開始。
- 2022年1月 石川一郎を迎えて、学校構想に賛同いただける自治体を探す。
- 2022年6月 田辺市へ初めての訪問。学校設置候補場所として中辺路町の旧二川小学校と巡り合う。
- 2022年11月 学校構想を近隣住民及び地元市議会議員の協力のもと、住民説明会を開催。
- 2022年12月 うつほの杜学園(仮称)誘致要望書が地元7区の区長と自治連絡協議会長から田辺市真砂市長へ提出される。
- 2023年3月 事業者名を一般社団法人うつほの杜学園設立準備会へ変更。
- 2023年5月 田辺市・二川小学校近隣住民・一般社団法人うつほの杜学園設立準備会による三者協定を締結。
- 2023年7月 旧二川小学校にて第1回サマースクールを開催。70人(28家族)の参加者のうち、80%が近隣地域(田辺市・白浜町・上富田町・みなべ町)、他関西・東京・ノルウェー・シンガポールから参加。8人のIB国際バカロレア認定教員が参加。
- 2023年7月 イタリアNGO Future Food Institute(食とサステナブルをコンセプトに教育活動などをを行う非政府組織)と連携協定締結。
- 2023年11月 クラウドファンディングに挑戦。591人より2,023万円が集まる。
- 2024年2月 株式会社アワーズ(アドベンチャーワールド)との連携協定締結。
- 2024年3月 株式会社タカショーデジテックとの連携協定締結。
- 2024年3月 うつほの杜学園設立準備会とアドベンチャーワールド動物園内でバイリンガル親子探究スクールを共同開催。参加者数:59名(29家族)
- 2024年4月 2024年4月現在51社と681人より設立のための目標額3億7千万円を超える寄付とふるさと納税等を活用した補助金が集まる。
- 2024年4月 学校法人認可申請書を和歌山県知事へ提出。2024年6月現在、認可申請中。



主要な共創パートナー企業・個人



ADVENTURE WORLD



株式会社 キナッ



SCOPE



DAISEN CO., LTD.

Energy Best Mix



TAKASHO DIGITEC CO., LTD.

中田食品



NKC

Nihon Unist

株式会社 浅井良工務店 / 石川一郎 様

岩本石油株式会社 / 株式会社カナセ

カムナ株式会社 / きのくに信金

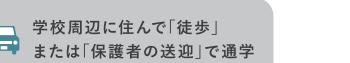
木本産業株式会社 / 島正博 様 (島財団)

築野食品工業株式会社 他

2024年5月末時点 五十音順

田辺の生活 Life in Kumano

田辺市や学校周辺は実は国内のみならず、海外から多くの移住者が古くから移り住むエリアです。気候は温暖で食材豊か。1000年以上の歴史を持つ熊野古道のエリアは昔から外の人を受け入れる文化が根付き、地元の人々はあたたかく受け入れてくれる文化があります。子育て世代にも人気の山、川、海、温泉などレジャー環境も抜群！地元のお祭りやイベントも多く、若い世代のまちおこしも盛んです。



中辺路町暮らし



中辺路町在住
Sさん
自営業

1年前に千葉県から中辺路町にUターン移住しました。都会にはない「自然が身近にある暮らし」が中辺路町の魅力です。山、川、熊野古道がすぐそこがあり、車で1時間圏内には海、温泉、アドベンチャーワールドなどの子どもと一緒に楽しめるレジャーが豊富です。買い物は車で約30分の大きなスーパーで週1~2回まとめ買いをしています。野菜や魚が新鮮で安い！都会と比べると買い物の頻度は少し工夫が必要ですが、それほど不便は感じていません。地域のみなさんには「よく来ててくれたね」と声をかけていただき、いつも温かいまなざしで子どもたちの成長を見守っていただいています。中辺路町はUターン移住者も多く、移住者同士の交流も楽しみの1つです。白浜空港から羽田空港への直行便もあるので、普段は家族で自然の中でのんびり生活ができる、必要な時は都会へアクセスできるこの暮らししが心地よいです。



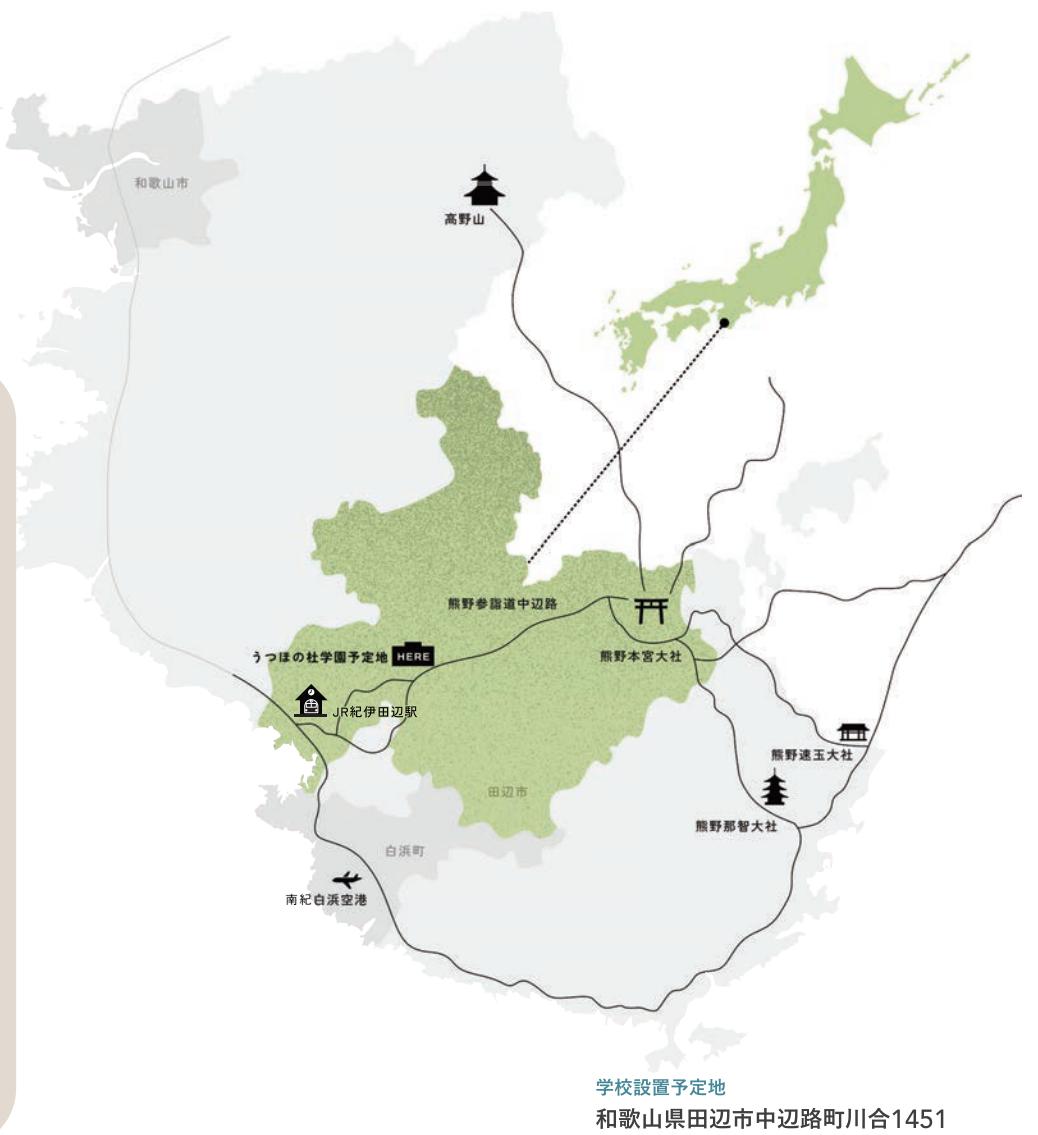
まちなか暮らし



田辺市街地在住
下田 マナブさん (coamu creative)
イベントディレクター / フォトグラファー



都会から離れ、田辺の市街地に住み始めて早6年。田辺は最高の「環境」が揃った場所です。まずは生活「環境」の良さ。スーパーやコンビニでの普段の買い物は、徒歩や自転車で十分です。チェーン店ではなく、個性豊かな個人商店が多いことも魅力です。次に、アクセス「環境」の良さ。大阪方面へは高速道路やJR、高速バスがあります。隣町にある南紀白浜空港からは羽田便が出ており、我が家から約2時間で品川駅へ行くことができます。仕事で大阪や東京に出ることの多い僕にとっては、嬉しい発見でした。そして何より自然「環境」の良さ。市街地のそばにビーチがあり、美しい夕日を眺めることができます。車で15分ほど走れば里山の風景があり、その向こうには熊野の森が広がります。移住当時は3人だった家族も4人となり、子どもたちは豊かな環境の中ですくすくと元気に育っています。



通学パターン・アクセス Access

通学パターン



紀伊田辺駅からと白浜駅から
2便 運行予定
途中停留あり



アクセス 公共交通機関とお車で



説明会
オープンスクール

うつほの杜学園についてよりご理解いただくため、学校説明会とオープンスクールを
主要都市およびオンラインで随時開催しています。
詳細は、うつほの杜学園設立準備会のWebサイト等でご確認ください。